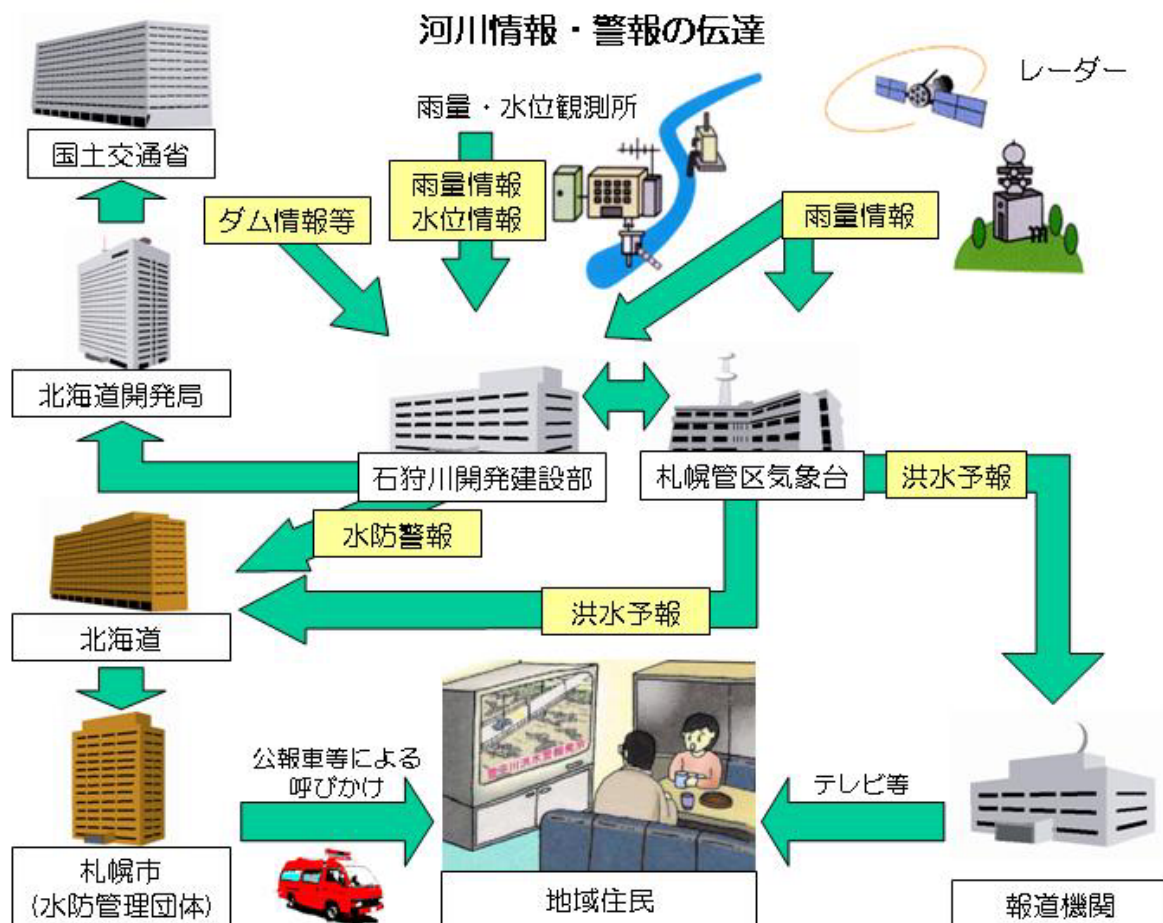


## 河川情報・警報の伝達



治水計画や施設の対応能力を超える規模の洪水が発生した場合にも、できるだけ被害を小さくするために、防災関係機関が連携・協力してさまざまな情報の提供を行っています。

洪水は、突然発生する地震とは異なり大雨が降ってから発生するまでに若干の時間差があります。そして時々刻々と状況が変わっていくため、その状況に応じてどのようなことが起こり得るかがある程度想定をすることができます。この時間の中で被害を少なくするためどのような対処を行うかということをいろいろと考えていくことが大事なポイントです。限られた時間の中での的確な予測を行い精度の高い情報を提供できれば、的確な対処につながります。

北海道開発局では、雨量・河川水位の計測を行いリアルタイムで情報を収集しています。またダムなどの施設の情報、さらに面的に降雨状況を把握するレーダー雨雪量計を整備し、国土交通省の関係機関や管区气象台に配信するとともに、これらの計測情報や気象情報などから洪水の状況を監視し、气象台と協力して洪水予報や水防警報などの警報を発表します。

これらの情報は自治体や防災関係機関に伝達されるとともに、市民の方には報道機関の協力を得てテレビやラジオから、また自治体の広報車や防災無線などを通じて伝達されます。